

大都会・岡山都市圏の理想の交通

NPO 法人公共の交通ラクダ会長 岡将男

<https://racda-okayama.org/> okj165@poppy.ocn.ne.jp

はじめに

ラクダでは設立以来 30 年間岡山都市圏の公共交通について様々な提案を行ってきた。路面電車環状化、駅前乗入、吉備線 LRT 化がそれで、それぞれ 10 万人、1 万 3000 人、2 万 2557 人の署名活動を岡山市に提出。また低床路面電車 MOMO 導入募金や国交省ロビー活動にも取り組んできた。さらに毎月瓦版を発行し現在まで 262 号になる。岡山都市圏の公共交通分担率を 15 年前から 15%にするべきだと主張してきたが、その前提となる細かい数値目標は提示できなかった。

こうした中で全国ネットワークの議論の中で、岡山では 8 方面に伸びる JR 線のサービスレベルを上げる明確な目標設定が必要だと結論になった。

1. 車 1 割削減、渋滞半減、公共交通 2 倍と分担率目標の設定

■岡山都市圏全体の交通最適化、

公共交通分担率 15%目標

現状北区 12%、中区・東区 8%、南区 4%、倉敷市 4%の倍増

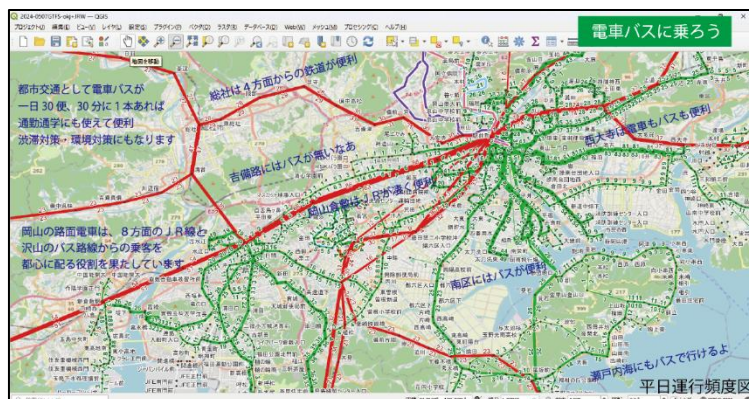
■岡山市のバスルート再編を前提として、岡山都市圏全体に広める、瀬戸内市、総社市、備前市、赤磐市、玉野市、浅口市、福山市、笠岡市、高松市などにも波及

■JR 普通列車のパターン化と増便、渋滞対策のキモ

山陽本線・岡山一倉敷 15 分毎(別に伯備線あり)120 便に増発、自動車からの誘導策

岡山県南・福山都市圏の「中央本線」、毎時 2 本の快速復活・東西方向の通勤通学

各駅から南北方向の通勤通学バス、撫川に新駅を設置し 1000 台規模の立体 P&R 駐車場



2. 吉備線 LRT 化の再構築(LRT 案・電化案・ハイブリッド案)

まず電化し加減速能力を高め、まず 2 駅新設で、同時間で走行可能で利便性が向上

or 城端線・氷見線用のハイブリッド高性能車両導入も一案

吉備線全線 30 分毎、備中高松まで 15 分毎に増発。行違い施設増加、7.5 分パターン化まで可能

電車なら当面 URARA など乗入で、赤穂線と直通運転、将来 70%低床車輛で都心乗入

岡山一備前三門は併用軌道新設を中止(工期費用大幅圧縮)

既存ホームを最大限活用、電車・ハイブリッドでも嵩上げ必要

バス再編一宮駅へのバス乗入、吉備路観光は各駅からコミバス、造山古墳の結節点化

岡山スマート IC・岡山 IC・総社 IC 間を無料化(高速誘導)岡山西バイパス 4 車線立体化

3. 赤穂線高度化計画

赤穂線・長船 15 分毎の増発（東岡山—長船折返し追加）

城東高校駅新設、工場群のある北長船駅新設（長船駅止め延長）

赤磐市中心部と平島・八日市のバスに接続する長船駅と長船工場群巡回コミバスの新設

岡山市外郭環状バス路線新設

4. 瀬戸大橋線高度化計画と四国新幹線

四国新幹線は、瀬戸大橋線完全複線化による中速新幹線として、160km 運転部新線・トンネルで岡山・松山 80 分。

瀬戸大橋などは既に新幹線対応済

大元駅・西市駅・妹尾駅の交通結節点能力の拡大、コミバス・ももちやり・スモール

モビリティ拠点設置など、ビジネスでの利用促進も図る

大福新駅(国道 2 号線渋滞ポイント) 500 台規模の P&R で都心流入を抑制

■津山線都心部高度化

津山線・吉備線の直通運転可能（以前 6 便程度設定）備前原駅・玉柏駅の P&R 交通結節点化

■水島臨海鉄道の電化・増便・山陽本線乗入、岡山・瀬戸内・赤磐などからの通勤需要掘起こし

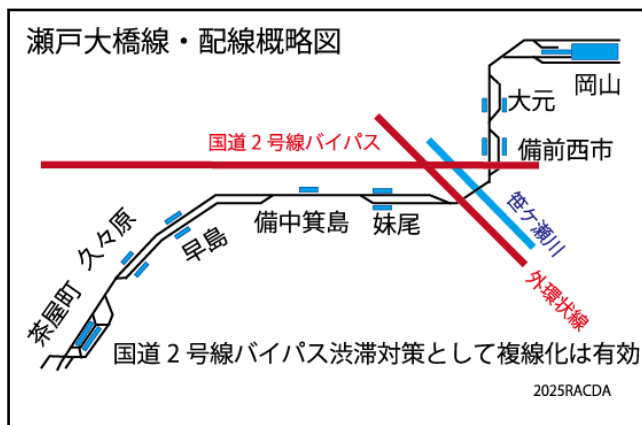
■JR 線の大増便に応じたバス幹線網の大増便、全体の投資計画、新規バスルート 3 か月間無料

■副都心にランデブー拠点整備。岡南バスタを新設し、交通結節点強化。旭東方面バス路線新設
水島・玉野方面の通勤通学需要の掘起こし、ももちやり・スモールモビリティ拠点

■岡山市の大学生バス無料化 or ハレカハーフ&岡大方面深夜バス増便(自転車飲酒規制強化対応)
ハレカジュニアハーフ、クラブ活動の学外対応対策、送迎人生と女性たちの負担軽減を要望

「高校生を無料化」した市町村に交付税措置など国に要望

■岡山県南都市圏渋滞対策チームを結成、公共交通の管制センターの設立、道路と一括管理
GTFS と QGIS 活用、オープンデータで交通計画・都市計画



おわりに

上記メニューを実現するためには、渋滞対策の効果があるならば、民間の都市鉄道にも社会資本整備総合交付金を活用できる仕組みが必要である。電車バス大増便にも道路投資と同様の財源確保が必要であり、交付税措置拡大だけでなく、地方自治体の一般会計の 1%程度を公共交通運営資金に投入する必要がある。また瀬戸大橋線複線化は中速新幹線による四国新幹線実現への第一歩ともなりうるので、国民的議論も必要である。RACDA では 2023 年実施の岡山県パーソントリップ調査のデータを入手し、より細かい実行プランを作成したいと考えている。

キーワード

交通需要管理（TDM）、LRT、公共交通計画